

# 平塚市南北都市軸における幹線バスの導入について

## ●導入の背景

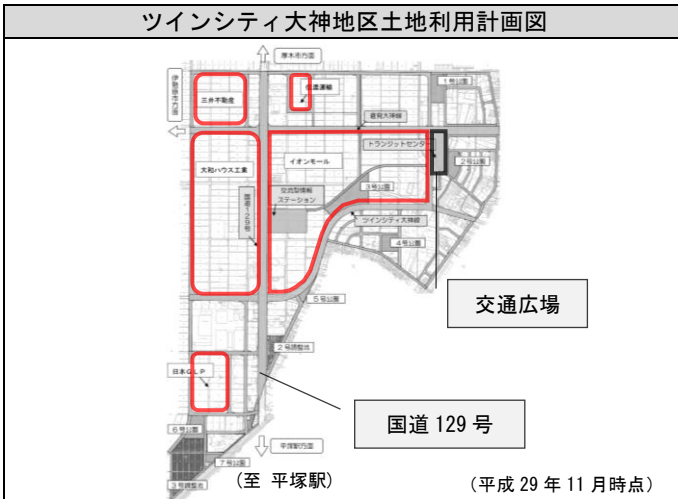
- ・ツインシティ大神地区の整備が進み、立地企業（物流施設、大型商業施設）が開業することにより、さらに公共交通の輸送需要の増加が想定される。
- ・ツインシティ大神地区周辺の現行の公共交通について、「平 53 系統」（平塚駅北口～本厚木駅南口間）の路線バスの運行が最も多く、その車内は混雑している状況である。
- ・平塚駅北口ロータリーにおいては、現況ピーク時の「平 53 系統」の 6 番乗り場で、飽和状態（占有率 114%）となっている。

※ピーク時：朝ピーク時間を 7～9 時、夕ピーク時間を 18～20 時

## ●導入の必要性

- ・「平 53 系統」の現行便数で将来需要に対応した場合、ピーク時では車内が混雑し、利用者のサービスが悪化することから、公共交通の拡充が必要となる。
- a) 路線バスの拡充、・b) 大量輸送が可能な新たな公共交通システムの導入が必要
- ・路線バスの定時運行や安全性、平塚駅北口ロータリーの交通混雑を踏まえ、より少ない台数での運行が望ましいため、連節車両の導入が必要と考える。
- ・なお、ツインシティ大神地区の概成時には、地区内及び沿線地域の居住人口の増加が期待され、更なる需要の増加が想定されることから、連節車両導入の必要性については、更に高まるものと考えられる。

### 《将来の輸送需要(増加分)について》

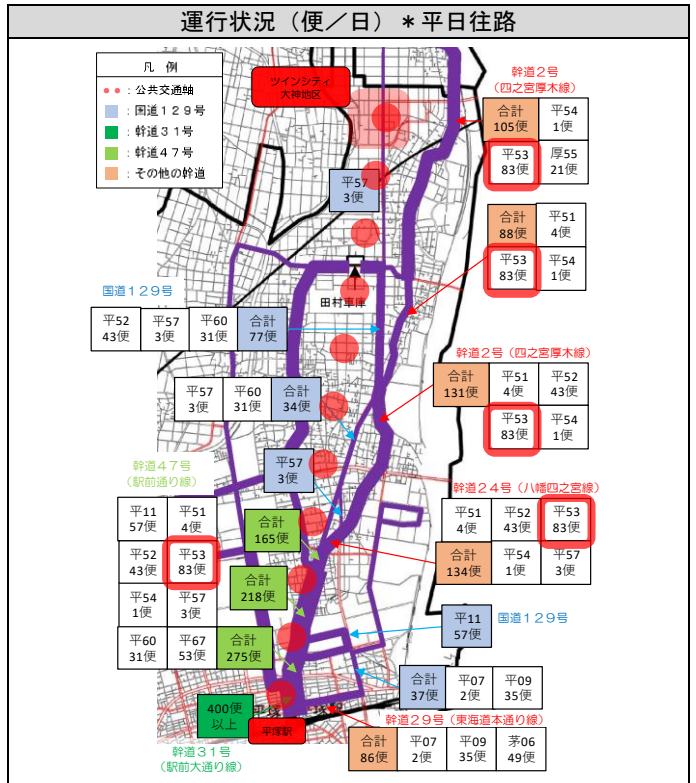


### H 2 9 企業アンケート調査結果

位置	企業名	従業者数 (公共交通利用者)
1	A社	265 人 (130 人)
2	B社	50 人 (10 人)
3	C社	600~700 人 (130 人)
4	D社	175 人 (35 人)
5	E社	従業員 2500~3000 人 (800~1000 人)
		来客者 80 万人/月 (4 万人/月)

※上記は、アンケート調査時点での各企業の同規模施設等を参考にした想定値であり、開業時の実際の利用状況とは異なる可能性がある。

### 《現行のバス網について》



### 《現行「平塚駅北口ロータリー」の混雑状況〈朝ピーク時（7時台）の占有率〉》

<p>A. バス降車場 (4箇所)</p> <p>B. バス乗車場 6番乗り場 (「平 53」本厚木行)</p>	<p><b>降車</b></p> <p>○現行便数による降車状況 (場所A)</p> <table border="1"> <tr><td>・降車時間 (分/台) ※研究値</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>・降車場の本数 (台) ※H29.6 時点</td><td>27</td></tr> <tr><td>→バス降車の占有時間 (分)</td><td>51.3</td></tr> <tr><td>⇒占有率* (%)</td><td>86</td></tr> </table>	・降車時間 (分/台) ※研究値	1.9	・降車場の本数 (台) ※H29.6 時点	27	→バス降車の占有時間 (分)	51.3	⇒占有率* (%)	86	<ul style="list-style-type: none"> <li>・占有率が 85% を超過しているが、少し空きがある状況。</li> </ul>			
	・降車時間 (分/台) ※研究値	1.9											
・降車場の本数 (台) ※H29.6 時点	27												
→バス降車の占有時間 (分)	51.3												
⇒占有率* (%)	86												
<p><b>乗車</b></p> <p>○現行便数による乗車状況 (場所B)</p> <table border="1"> <tr><td>・乗車時間 (分/台) ※研究値</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>・乗車場の本数 (台)</td><td>9</td></tr> <tr><td>①乗車占有時間 (箇所/分)</td><td>23.4</td></tr> <tr><td>②必要発車間隔 (5分×台) ※指針</td><td>45</td></tr> <tr><td>→バス乗車の占有時間 (分) ※①+②</td><td>68.4</td></tr> <tr><td>⇒占有率* (%)</td><td>114</td></tr> </table>	・乗車時間 (分/台) ※研究値	2.6	・乗車場の本数 (台)	9	①乗車占有時間 (箇所/分)	23.4	②必要発車間隔 (5分×台) ※指針	45	→バス乗車の占有時間 (分) ※①+②	68.4	⇒占有率* (%)	114	<ul style="list-style-type: none"> <li>・占有率が 100% を超過し、運用状況は飽和状態である。</li> <li>※他の主要路線(伊勢原駅行、秦野駅行)の乗り場も同様に飽和状態である。</li> </ul>
・乗車時間 (分/台) ※研究値	2.6												
・乗車場の本数 (台)	9												
①乗車占有時間 (箇所/分)	23.4												
②必要発車間隔 (5分×台) ※指針	45												
→バス乗車の占有時間 (分) ※①+②	68.4												
⇒占有率* (%)	114												
<p>【考察】・大量輸送が可能な新たな公共交通システムの導入について検討が必要である。</p> <p>・6番乗り場(本厚木駅行)以外の乗り場も含めて検討が必要である。</p>													

※占有率\*：1時間のうち利用者の乗降車の時間が占める割合 (占有時間/60分)